

(別紙5)

補助事業番号 26-2-016
補助事業名 平成26年度 お年寄りが幸せに暮らせる社会を創る活動 補助事業
補助事業者名 公益財団法人 認知症予防財団

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

認知症の予防、治療に関わる啓発事業を進め、もって社会福祉の増進に寄与する

(2) 実施内容

1) 認知症の無料電話相談記録票のデジタル化及びデータベース化

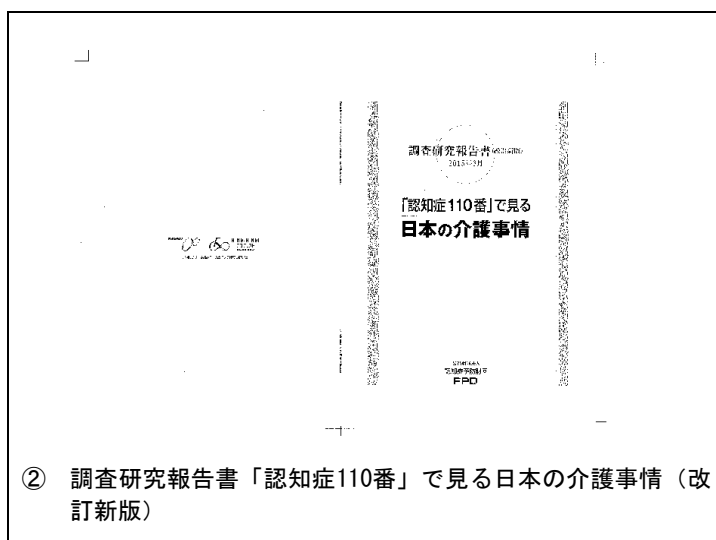
過去23年分の電話相談記録票の入力を山手情報処理センターに委託し、平成25年8月から実施した。記述式の相談・回答内容は全文入力しているため時間がかかり、1年後の平成26年8月末に約2万1000件すべての入力を終えた。平成25年9月以降の新規相談は研修を受けた相談員自身が入力し、平成27年3月末で累計2万1736件に達している。パソコンとサーバーは大塚商会と契約し平成25年4月に設置した。



相談員が相談に応じながら内容を直接サーバーに入力していく。
書く手間が省け、相談にたっぷり時間を割くことができる

2) 報告書・ハンドブックの編集と発行

データベース化された電話相談記録票を活用するため統計分析法検討委員会を平成26年11月に開催し、日本の介護事情の変遷が分かる調査研究報告書の改訂新版と親や連れ合いの認知症に悩む家族が最初に手に取って読んでほしいハンドブックの第2弾「どうしたらいいの?認知症」を同時刊行した。報告書は400部、ハンドブックは当初の1,000部から増刷し2,000部印刷し、自治体や介護施設、家族の会等に配った。



2 予想される事業実施効果

(調査研究報告書とハンドブックの刊行)

刊行した上記2冊は昨年も問い合わせのあった家族の会や他の電話相談団体、自治体、介護施設に送った。またハンドブックは毎日新聞や介護専門紙シルバー新報でも紹介されたため、3月下旬～4月は問い合わせの電話や注文依頼のはがきが殺到した。新聞で「第2弾」と紹介されたので、昨年の分と一緒に送ってほしいという注文も多く、読んだ感想と併せお礼の電話やはがきも相次いだ。新聞やテレビのニュースで認知症の話題が毎日のように紹介される時代にあっても、介護保険や地域包括支援センターの存在すら知らない人も多く、本人や家族が認知症になったときどうしたらいいかと迷った際に灯台のように暗闇の中の一筋の灯りとなるような情報を引き続き発信していくことの意義は大きいと考える。

(別紙5)

3 本事業に係る成果物

(1) 補助事業により作成したもの

(認知症の無料電話相談記録票2万1736件が入ったデータベース)
＝財団ホームページのトピックス「**認知症110番**」の相談記録票データベース
化完了」(2014年8月)ほかで紹介

(URL) http://www.mainichi.co.jp/ninchishou/topics/2014_08_1.html

(2) (1) 以外で当事業において作成したもの

(報告書とガイドブック)
＝財団ホームページのトピックス「**認知症110番**」報告書とガイドブック好評、
申し込み続々」(2015年4月)ほかで紹介

(URL) http://www.mainichi.co.jp/ninchishou/topics/2015_4_3.html

4 事業内容についての問い合わせ先

団 体 名： 公益財団法人 認知症予防財団 (ニンチショウヨボウザイダン)

住 所： 〒100-8051

東京都千代田区一ツ橋1-1-1 毎日新聞社内

代 表 者： 理事長 朝比奈 豊 (アサヒナ ユタカ)

担 当 部 署： 事務局

担 当 者 名： 事務局長 紀平 重成 (キヒラ シゲナリ)

電 話 番 号： 03 - 3216 - 4409

F A X： 03 - 3216 - 3620

E - m a i l： fpd@orion.ocn.ne.jp

U R L： <http://www.mainichi.co.jp/ninchishou/>